

コンピューターウイルスの被害が拡大している。特に猛威を振るっているのがパソコンのデータを勝手に使えなくして、元通りにする見返りに金銭を要求する「身代金型」。セキユリティー会社は新種が今年は3割増え、さらに被害が増える懸念があるとみている。

「暗号解読ソフトを購入し、暗号化されたファイルを取り戻しませんか」。都内に住む40代の男性は先月、ノートパソコンに表示された画面をみて目を疑った。

いま被害が急増しているウイルスが「ランサム（身代金）ウェア」だ。メールに添付されたファ

パソコン侵入→復旧見返り要求

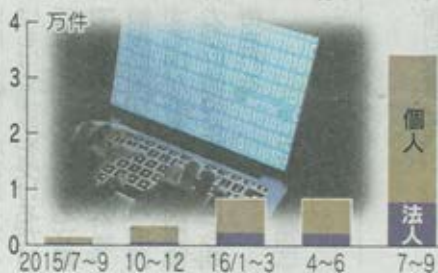
身代金ウイルス 猛威

今年、新種3割増予想

イルを開くなどで感染。と、同ウイルスを検知し金銭を払えばファイルを開けるのに必要な電子鍵を送るという手口だ。セキユリティー大手のトレンドマイクロによる調査では被害企業の63%が「身代金

を支払った」と回答した。対策ソフトの網から逃れようと既存のものとはプログラムが異なる新種も増えている。「2017年は16年比25%増の見込み」（トレンドマイクロの鮎目順介シニアスペシャリスト）という。

ウイルスの検知件数は急増している



(注)トレンドマイクロのソフトがランサムウェアを検知したパソコンの台数

半分近くが500万円以上の被害



(注)トレンドマイクロ調べ